

ニュースにおける省略と後置

轟 里香*

On Sentences Lacking Important Information in Japanese News Programs

Rika Todoroki*

Received December 9, 2013

Abstract

The purpose of this paper is to analyze sentences which lack important information in Japanese TV news programs. In those programs, there have been sentences lacking grammatically required elements. For example, some sentences do not have their predicates. Others lack one or more arguments to which the verb needs to assign θ -roles and thus violate a syntactic rule, the θ -criterion. In some cases, the first sentence of one news story lacks important information, which is revealed in the following sentences of the context gradually.

This paper examines those kinds of sentences in news programs, and divides them into three groups, according to how the missing information is revealed in the news story. Furthermore, this paper shows how the linguistic phenomena started diachronically, by referring to a news example in 1970s.

1. 導入

近年、日本のニュース番組¹⁾において、文の要点や必須の要素を後ろのほうに動かしたり省略したりする現象が見られる。轟(2007)はこのような言語現象を「要点の後置・省略」と呼んでいる。本論文では、この現象にいくつかのタイプがあることを指摘する。そして、そのような場合、後ろに動かされたり省略されたりした部分の情報が、どのような形で補われるか(あるいはまったく補われないか)という点で3つのパターンに分類できることを示す。そして、それらが歴史的に見てどのように現れたかを考察する。

本論文の構成は次のようなものである。2節では、ニュースにおける要点の後置・省略の様々な例を指摘する。3節では、音声言語で省略された情報が他の形の記号でどのように補われているかを考察する。4節では、要点の後置・省略が歴史的に見てどのように始まったと考えられるかを述べる。5節では、本論文のまとめを行う。

*未来創造学部 Faculty of Future Learning

2. 省略と後置の様々なタイプ

2.1 単文中で必須の要素の省略

ニュースで用いられる単文の中には、必須の要素が省略されているタイプの文がある。例文(1)(2)では、述部が完全に省略されている。

- (1) a. 民主党の対案の提案に対し、与党は。
b. 一方他の野党からは。
c. 福田総理大臣は。
(「ニュースウォッチ 9」NHK、2007 年 12 月 21 日放送²⁾、轟 2008:125)
- (2) 専門家は。
(「ニュース 7」NHK、2013 年 11 月 17 日放送³⁾)

次の例では、述部は存在するものの、文の様々な要素が省略されている。これらの文はいずれも、そのニュース項目での冒頭の文である。

- (3) ほぼ 4 年 3 ヶ月ぶりの復活です。
(「ニュース 7」NHK、2010 年 10 月 5 日放送、轟 2010:102)
- (4) 我が家でも飼っています。
(「ニュース 7」NHK、2011 年 6 月 24 日放送)
- (5) 願いをかなえる研修会です。
(「ニュース 7」NHK、2011 年 11 月 12 日放送、轟 2011:4)
- (6) 700 万円払った部下もいました。
(「ニュースウォッチ 9」NHK、2007 年 12 月 21 日放送、轟 2008:125)
- (7) 洪水の被害はいつまで続くのでしょうか。
(「ニュース 7」NHK、2011 年 11 月 12 日放送、ibid., 5)
- (8) 早くも梅雨入りです。
(「ニュース 7」NHK、2013 年 5 月 27 日放送)

これらの文の中には、Chomsky (1981) で提案された θ 基準を破っているものがある。 θ 基準では、項と意味役割は一対一対応の関係になければならず、いかなる項にも付与されない意味役割が存在することは禁じられている。次の文は θ 基準を破っている例として統語論で挙げられるものである。

- (9) *John put on the table. (中村、他 1989:77)
(10) *ジョンはテーブルの上に置いた。

(9) では、動詞 put がもつ意味役割の一つである Theme が付与されるべき項がない。同様に(10)でも、動詞「置く」がもつ意味役割の一つが付与されるべき項がない。よって、(9)(10)は θ 基準違反となる。このような文が、ニュースの項目の冒頭に出現する例が見られる。例えば、(4)では、動詞「飼う」の目的語が省略されることによって、「飼う」の目的語に付与される意味役割に対応する項が存在しないことになる⁴⁾。

また、(5)(6)にある「願い」「部下」などの名詞は、初出時には「だれの」を表す情報を

必要とするが、(5) (6) ではそれらが省略されている。また、(7) (8) のように、統語的には辛うじて成立している文であっても、「いつ」「どこで」など従来ニュースで必要とされていた情報（いわゆる 5W1H に属する情報）が省略されている。例えば、(8) では、「どこで」梅雨入りしたのかが省略されている。

このように、単文で必須の要素が省略されている例がニュースでしばしば見られる。

2.2 談話の構造としての要点後置

談話の構造として要点が後置される場合がある。これは、そのニュース項目の中で最も重要な情報を表す文が、第二文以降に置かれている場合である。そのような例を幾つか挙げる。

- (11) a. 国内最大の百貨店グループが誕生します。大手百貨店の三越と伊勢丹は、来年 4 月に経営統合することを正式に発表しました。
b. 夢の電池登場となるのでしょうか。バイオ電池なるものが開発されました。
(「イブニングニュース」TBS、2007 年 8 月 23 日放送、轟 2007:129)
- (12) 県特産物を守ろうとみんなが力を合わせます。農協や農家が結成したパトロール隊。守ろうとしているのは秋の味覚 20 世紀梨です。鳥取県佐治町では、毎年収穫直前の梨が盗まれていることから、今年パトロール隊を結成しました。
(「ニュース 7」NHK、2007 年 8 月 23 日放送、轟 2007:129)
- (13) 検察への信頼を根底から揺るがす事態です。厚生労働省の元局長が無罪判決を受けた事件。大阪地検特捜部の主任検事が押収したフロッピーディスクのデータを改ざんした疑いがあることが分かり、最高検察庁が捜査を始めました。
(「ニュース 7」NHK、2010 年 9 月 21 日放送、轟 2010:102)
- (14) 洪水の被害はいつまで続くのでしょうか。タイは、満潮のときの潮位が特になくなる大潮を再び迎えました。被害が長期化する中、タイのスラボン外相と会談した玄葉外務大臣は、日系企業の操業を早期に再開させるため、タイ政府の協力を要請しました。
(「ニュース 7」NHK、2011 年 11 月 12 日放送、ibid., 5)
- (15) さあ、大型連休最終日の今日、大きな事故につながりかねないトラブルが起きました。ご覧の映像は、大分空港を離陸し、大阪に向かう日本航空の小型ジェット機。この旅客機が、大阪空港着陸直後にエンジン火災を起こしました。
(「ニュースウォッチ 9」NHK、2013 年 5 月 6 日放送)
- (16) では、次です。巨大な自動車運搬船が関係した可能性が出てきました。こちら、きのう宮城県沖で発見されたマグロ漁船の船首部分です。船長は今も行方不明のままです。当時現場海域を外国船籍の自動車運搬船が航行していたことが分かり、海上保安本部が詳しい状況を調べています。宮城県金華山の沖合 300 キロ。浮かんでいるのは、2 つに割れた漁船。その船首部分です。さらに、離れたところには、沈没しかかった船尾部分。高知県須崎市のまぐろはえ縄漁船、第七勇仁丸が 2 つに割れていました。きのう午前 10 時過ぎ、遭難信号を発信。船長の義澤宏志さんが行方不明となっています。海上保安本部によりますと、救助された乗組員は、自分たちの漁船に大きな船が衝突してきたと話しているということです。
(「ニュースウォッチ 9」NHK、2013 年 6 月 24 日放送)

次の例では、要点を省略して後で述べるということがさらに進んで、一度述べたことを後で否定するという形をとっている。

(17) 名刺を交換するサラリーマンたち。臨んだのは、商談・・・ではなく、巨大地震を想定した訓練です。

(「ニュース 7」NHK、2013 年 6 月 22 日放送)

これらの談話例のうち、(12) はこのニュース番組（「ニュース 7」）の最後に放送されたものである。この番組では、2013 年現在まで、このような構成を取る談話が一つのコーナーのようになっている。このコーナーでは、必須要素が省略されている単文をアナウンサーがまず述べ、その後ニュース映像が流される、という構成をとっている。この構成については 3 節で詳しく述べる。

このように、談話の構造として要点が後置される場合がしばしば見られる。このような談話における冒頭の文では、前節で述べた、統語的に必須の要素やいわゆる 5W1H に属する情報の一部が省略されている場合が多い。(14) はそのような例である。(14) の第一文は、(7) であり、「どこで」という情報が省略されている⁹⁾。

このような談話に類似した構造は、文学作品で見られることがある。例えば、2013 年の芥川賞を受賞した小説『爪と目』に関して、次のように述べられている。

受賞作「爪と目」は、妻を亡くした男性と同居を始めた愛人と、亡くなった妻の幼い娘との間に漂う、不穏な緊張感を描いた物語。受賞時、書き出しの一文が話題をさらった。「はじめてあなたと関係を持った日、帰り際になって父は『君とは結婚できない』と言った」——思わず読み直してしまうような違和感は、「わたしは三歳の女の子だった」という説明で「娘が語り手なのか」と解消されるけれど、怖いのはそこから。幼い「わたし」が年上の「あなた」の行動を淡々とつづる文章は、愛人が常に娘から監視されているような不気味な錯覚を生み、その先に壮絶なラストシーンが待ち受ける。

(「どう書くか 沈黙の 1 年」朝日新聞 2013 年 11 月 30 日、下線は筆者)

この小説の第一文は、必須要素の省略を含んでおり、「思わず読み直してしまうような違和感」を生んでいる。それが、その後の説明で「解消される」という構造になっている。

小説とテレビニュースでは、文字言語と音声言語という違いはあるが、この小説でとられている上のような構造と、ニュースの音声言語でしばしばとられている構造は、類似していると言える。例えば、この小説の第一文で省略されている要素の一つとして、「父」がだれの「父」なのかという情報があるが、これは、(18) で「部下」がだれの「部下」なのかという情報が省略されていることと類似している。

(18) (= (6)) 700 万円払った部下もいました。

(18) を第一文とするこのニュースの続きは、以下のようになっている。

(19) 700 万円払った部下もいました。神奈川県警察本部の警視が関与した疑いが出ている靈感商法事件で、この警視は、部下の警察官を靈感商法が行われていたサロンに勧誘したり、投資話を持ちかけて金を集めていたことがわかりました。

(19) を見ると、(18) で省略されている、だれの「部下」なのかという情報が、続く説明で次第に明らかにされていくという構造になっていることがわかる。これは、上に述べた小説で取られている構造と非常に類似しているといえる。

3. 音声言語以外の形での補足—映像との組み合わせのパターン

テレビニュースは、言語や映像など様々な記号で成り立っている。また、言語にもアナウンサーの語りのような音声言語と画面上に文字の形で現れる言語がある。それで、音声言語に省略がある場合、その他の記号で省略された情報を補足するという可能性がある⁶⁾。このような補足をどのように行っているか（あるいは行っていないか）に関して、この節では3つのパターンに分けて考察する。

第一は、音声言語と同時に音声以外の形で情報を補う場合である。

(20) (= (8)) 早くも梅雨入りです。

この音声言語と同時に現れた映像上の文字は、(画面上方に)「九州 中国 四国地方」(画面下方に)「梅雨入り」である。この場合、音声言語で不足している「どこで」に関する情報を、文字で補っていることになる。

第二は、文の一部を映像で置き換える場合である。

- (21) (= (1)) a. 民主党の対案の提案に対し、与党は。
b. 一方他の野党からは。
c. 福田総理大臣は。

(21) のような例では、統語的には「福田総理大臣は次のように述べました。」等と言うべきところを、述部が完全に省略されている。(21a-c) の言語表現が現れた場面を比較すると、非常に類似したパターンがある。(21c) を例に、この言語表現が現れた場面の映像、画面上の字幕（および字幕が画面のどのあたりに現れたか）、音声の現れ方を表 1 に示す。表の右端の列は、録画した DVD の時間によるその場面のおおよその開始時刻を表す。

表 1

映像	画面上の字幕	音声	発話者	開始時刻
福田総理大臣 と記者たち	左上「民主党が対 案提出 新テロ対 策特措法は」	「福田総理大臣は。」	ナレーター ⁷⁾	21:07:32
福田総理大臣	左上「民主党が対 案提出 新テロ対 策特措法は」 右上「福田首相」 下部に音声と同じ 内容の字幕	「ちょっと拝見しましたが、 わからないですね、よくわか らない。(以下、筆者による 略)」	福田総理大臣	21:07:34

(轟 2008:126)

ここでは次のようなパターンがある。①ナレーターの「〇〇は」(「福田総理大臣は」)というナレーションとともにその人物(福田総理大臣)が映像で登場する。②画面の右上にその人物が誰かを示す字幕(「福田首相」)が出る。同時にその人物(福田総理大臣)の発話が始まる。

これとほとんど同じパターンで (21a,b) も出現している。つまり、(21) のような表現は、このニュース番組の中ですでにパターン化されていることがわかる。

このような例では、「福田総理大臣は『〇〇〇』と述べました。」の下線部を、映像と実際の福田総理大臣の発話で置き換えているとみなすことができる。言い換えると、「福田総理大臣は」という音声言語と、福田総理大臣のインタビュー映像・音声とを合体させて、「福田総理大臣は『〇〇〇』と述べました。」という文と同じ働きをさせようとしていることになる。

(21) は 2007 年に放送されたニュースに出現したものである。2013 年現在でもこのパターンが存在しているかどうか見るため、(21) に類似した 2013 年の例 (22) に関し、この言語表現が現れた場面での映像、画面上の字幕、音声の現れ方を表 2 に示す。

(22) (= (2)) 専門家は。

表 2

映像	画面上の字幕	音声	発話者	開始時刻
専門家とインタビューアー (後姿)	左上「ストーカーの危険度 チェックシートで判定へ」	「専門家は。」	ナレーター	19:14:19
専門家	左上「ストーカーの危険度 チェックシートで判定へ」 右上 (縦書き)「ストーカー問題に詳しい 千葉大学大学院 後藤弘子教授」 下方に発話が文字で出る	(発話、内容は省略)	専門家	19:14:23

表 2 を表 1 と比較すると、2013 年に放送されたニュースでも、2007 年の例とほぼ同じパターンをとっていることが分かる。

音声言語で省略された情報をどう補足するかに関しての第三のパターンは、どのような形で、も同時には情報を補わない場合である。

(23) (= (6)) 700 万円払った部下もいました。

(23) の文は、このニュース項目の第一文である。この文を、続く第二文以降と共に (24) で記す。(映像で字幕が出た時点を文中に記しておく⁸⁾。)

(24) 700 万円払った部下もいました。神奈川県警察本部の警視が関与した疑いが
(字幕「〓靈感商法、警視が部下の警察官を・・・」が画面に出る)
出ている靈感商法事件で、この警視は、部下の警察官を靈感商法が行われていたサロ

ンに勧誘したり、投資話を持ちかけて金を集めていたことがわかりました。」
(「ニュースウォッチ 9」NHK、2007 年 12 月 21 日放送、轟 2008:125)

前節で述べたように、(24) の第一文「700 万円払った部下もいました。」は、ニュースの内容をつかむには情報量が著しく不足している。その後出た字幕も省略を含んでいるが、第一文が出現した段階ではその字幕さえも出ていないので、第一文を聞いた段階では視聴者は何のニュースなのか分からない状態である。アナウンサーの言葉が進むにしたがって次第に状況が明らかになってくる。このような構造は、前節で述べたように、小説の冒頭で取られる構造と類似している。

このような、音声言語で省略された情報が同時には補われず、後になって徐々に明らかにされる、という構造を取っているニュースは、近年しばしば見られる。そのような例を以下にくつか挙げる。(25) は、このニュース項目の第一文、(26) はこのニュース項目の全体、表 3 は映像・画面上の字幕・音声の出現のタイミングを示す。

(25) (= (4)) 我が家でも飼っています。

(26) 我が家でも飼っています。子供たちが触っているのはカブトムシです。この施設ではおよそ 1 万匹が放し飼いにされています。明日のオープンを前に地元の子供たちが招かれました。仲良く遊んでね。

(「ニュース 7」NHK、2011 年 6 月 24 日放送)

表 3

映像	画面上の字幕	音声 (括弧中は発話者)
アナウンサー	なし	(アナウンサー)「我が家でも飼っています。」
子供たち	右上「兵庫 市川市」	
カブトムシ	右上「兵庫 市川市」	(アナウンサー)「子供たちが触っているのはカブトムシです。」
施設の様子	右上「兵庫 市川市」 左上「カブトムシ 触ってみたら・・・」 ⁹⁾	(アナウンサー)「この施設ではおよそ 1 万匹が放し飼いにされています。明日のオープンを前に地元の子供たちが招かれました。」
子供のインタビュー	左上「カブトムシ 触ってみたら・・・」	(子供)「ちょっと硬い。」 (インタビュアー?)「硬い?」 (子供)「うん。」
子供たち	左上「カブトムシ 触ってみたら・・・」	(アナウンサー)「仲良く遊んでね。」

(画面の一番下に株価と為替の情報が文字で出る。)

表 4、表 5 はそれぞれ、(27)、(28) の映像・画面上の字幕・音声の出現のタイミングを示す。

- (27) (= (15)) さあ、大型連休最終日の今日、大きな事故につながりかねないトラブルが起きました。ご覧の映像は、大分空港を離陸し、大阪に向かう日本航空の小型ジェット機。この旅客機が、大阪空港着陸直後にエンジン火災を起こしました。
- (28) (= (17)) 名刺を交換するサラリーマンたち。臨んだのは、商談・・・ではなく、巨大地震を想定した訓練です。

表 4

映像	画面上の字幕	音声（括弧中は発話者）
アナウンサー（男性）	なし	（アナウンサー）「さあ、大型連休最終日の今日、大きな事故につながりかねないトラブルが起きました。」
アナウンサー（女性） 隣に空港の映像	なし	（アナウンサー）「ご覧の映像は、」
アナウンサー（女性） 隣に空港の映像	画面下方「日航機が着陸直後エンジン火災」	（アナウンサー）「大分空港を離陸し、大阪に向かう日本航空の小型ジェット機。この旅客機が、大阪空港着陸直後にエンジン火災を起こしました。」

表 5

映像	画面上の字幕	音声（括弧中は発話者）
名刺を交換するサラリーマンたち	左上「一刻も早い生産再開を」 南海トラフ想定で企業は・・・」	（アナウンサー）「名刺を交換するサラリーマンたち。臨んだのは、商談」
プレゼンテーションのスクリーン。次のような文字が映っている。 「サプライチェーンリスクを踏まえた 災害危機対応演習」	左上「一刻も早い生産再開を」 南海トラフ想定で企業は・・・」	（アナウンサー）「ではなく」
プレゼンテーションのスクリーンを含む会場全体	左上「一刻も早い生産再開を」 南海トラフ想定で企業は・・・」 左下「巨大地震 想定訓練」	（アナウンサー）「巨大地震を想定した訓練です。」

表 6

映像	画面上の字幕	音声（括弧中は発話者）
アナウンサー（男性） アナウンサー（女性） 海上の割れた船の映像	左上「漁船 2 つに割れ漂流」	（アナウンサー（男性））「では、次です。巨大な自動車運搬船が関係した可能性が出てきました。」 （アナウンサー（女性））「こちら、きのう宮城県沖で発見されたマグロ漁船の船首部分です。船長は今も行方不明のままです。」
アナウンサー（男性） アナウンサー（女性） 海上の自動車運搬船の映像	左上「漁船 2 つに割れ漂流」	（アナウンサー（女性））「当時現場海域を」
アナウンサー（男性） アナウンサー（女性） 海上の自動車運搬船の映像→海上の自動車運搬船の映像が徐々にアップされる	左上「漁船 2 つに割れ漂流」 下方「自動車運搬船が関係の可能性」	（アナウンサー（女性））「外国船籍の自動車運搬船が航行していたことが分かり、海上保安本部が詳しい状況を調べています。」
海と飛行機の一部の映像	左上「漁船 2 つに割れ漂流 浮かび上がった『巨大船』」 右上「撮影 海上保安庁 きのう」	（ナレーター）「宮城県金華山の沖合 300 キロ。」
海上の割れた船の映像	左上「漁船 2 つに割れ漂流 浮かび上がった『巨大船』」 右上「撮影 海上保安庁 きのう」 左下「船首」	（ナレーター）「浮かんでいるのは、2 つに割れた漁船。その船首部分です。」
海上の割れた船の写真	左上「漁船 2 つに割れ漂流 浮かび上がった『巨大船』」 右下「船尾」	（ナレーター）「さらに、離れたところには、沈没しかかった船尾部分。」
海上の割れた船の写真	左上「漁船 2 つに割れ漂流 浮かび上がった『巨大船』」 下方「まぐろはえ縄漁船 第七勇仁丸（高知 須崎・19 トン）」	（ナレーター）「高知県須崎市のまぐろはえ縄漁船、第七勇仁丸が 2 つに割れていました。きのう午前 10 時過ぎ、」
海上の割れた船の写真→ 海上保安本部（？）が船を調べる 様子の写真	左上「漁船 2 つに割れ漂流 浮かび上がった『巨大船』」 下方「第七勇仁丸 きのう午前 10 時過ぎ遭難信号 発信 義澤宏志船長（52）が行方不明に」	（ナレーター）「遭難信号を発信。船長の義澤宏志さんが行方不明となっています。海上保安本部によりますと、」
海上保安本部（？）が船を調べる 様子の写真	左上「漁船 2 つに割れ漂流 浮かび上がった『巨大船』」 下方「救助された乗組員 『自分たちの漁船に 大きな船が衝突してきた』」	（ナレーター）「救助された乗組員は、自分たちの漁船に大きな船が衝突してきたと話しているということです。」

表 4、表 5 からわかるように、(27)、(28) のようなパターンを取るニュース項目では、音声言語の第一文で省略された情報が同時には補われず、後になって徐々に明らかにされる、という構造を取っていることが分かる。

次に (29) を見てみよう。表 6 は (29) の映像・画面上の字幕・音声の出現のタイミングを示す。

(29) (= (16)) では、次です。巨大な自動車運搬船が関係した可能性が出てきました。こちら、きのう宮城県沖で発見されたマグロ漁船の船首部分です。船長は今も行方不明のままです。当時現場海域を外国船籍の自動車運搬船が航行していたことが分かり、海上保安本部が詳しい状況を調べています。宮城県金華山の沖合 300 キロ。浮かんでいるのは、2 つに割れた漁船。その船首部分です。さらに、離れたところには、沈没しかかった船尾部分。高知県須崎市のまぐろはえ縄漁船、第七勇仁丸が 2 つに割れていました。きのう午前 10 時過ぎ、遭難信号を発信。船長の義澤宏志さんが行方不明となっています。海上保安本部によりますと、救助された乗組員は、自分たちの漁船に大きな船が衝突してきたと話しているということです。

表 6 からわかるように、(29) でも、音声言語の第一文で省略された情報が同時には補われていない。このニュースは、これが放送された前日に起こった事件に関連したものであるが、その事件は、新聞の報道によれば、次のようなものである。

(30) 23 日午後 1 時ごろ、宮城県金華山の南東約 300 *。の沖合で、海上保安庁の航空機が、船体が 2 つに割れて転覆している高知県須崎市のマグロはえ縄漁船、第 7 勇仁丸 (19 トン、乗組員 9 人) を発見した。第 2 管区海上保安本部 (宮城県塩釜市) によると、船長の義沢宏志さん¹⁰⁾ (52) が行方不明になっている。大型船と衝突したとの証言があり、船の行方を調べている。

(「漁船転覆、船長が不明」朝日新聞 (東京) 2013 年 6 月 24 日夕刊 15 面)

(29) で (30) の第一文にあるのと同じ情報が現れている部分に下線を引くと、以下のようになる。

(31) では、次です。巨大な自動車運搬船が関係した可能性が出てきました。こちら、きのう宮城県沖で発見されたマグロ漁船の船首部分です。船長は今も行方不明のままです。当時現場海域を外国船籍の自動車運搬船が航行していたことが分かり、海上保安本部が詳しい状況を調べています。宮城県金華山の沖合 300 キロ。浮かんでいるのは、2 つに割れた漁船。その船首部分です。さらに、離れたところには、沈没しかかった船尾部分。高知県須崎市のまぐろはえ縄漁船、第七勇仁丸が 2 つに割れていました。きのう午前 10 時過ぎ、遭難信号を発信。船長の義澤宏志さんが行方不明となっています。海上保安本部によりますと、救助された乗組員は、自分たちの漁船に大きな船が衝突してきたと話しているということです。

(31) を見ると、音声言語の第一文で省略された情報が、第二文以降で述べられているが、まとまった文の形で述べられるのではなく、断片的な形で少しずつ述べられていることがわかる。

この節では、音声言語に省略がある場合、省略された情報の補足をその他の記号でどのように行っているか (あるいは行っていないか) に関して、次のような 3 つのパターンを見た。

- ①音声言語と同時に音声以外の形で情報を補う。
- ②文の一部を映像などで置き換える。
- ③どのような形でも同時には情報を補わない。

③では、音声言語で省略された情報を同時には補わず、後になって徐々に明らかにする、という構造を取る。

次の節では、ニュースにおけるこのような要点の省略と後置の現象がどのように始まったかを考察するため、この現象に関連して比較的古いニュースの例を見ることにする。

4. 過去のニュースにおける省略と後置

過去に放送されたニュースを見ると、談話の構造としての要点後置はかなり古くからあることがわかる。(32)は1974年に放送されたニュースである。

- (32) さて、イギリス人ほどではありませんけれども、私たち日本人も季節の移り変わりというものに極めて敏感です。つい4日前に季節はずれの春の雪に見舞われました東京は、今日はまるでうって変わった5月上旬のぼかぼか陽気です。どうも少しおかしいと、気象が尋常ではないというのが茶の間の話題を呼んでおります。ちょっとこの図をご覧ください。これはアメリカの衛星ニンパス5号がマイクロウェーブを使って撮影しました南極大陸の写真です。最初のこの写真を撮ってからわずか1か月半後に撮影したこの写真ではこれだけの変化が起きておりまして、別の言葉で言えばこの1か月半の間にこの分だけの氷がなくなってしまったということになります。面積にしますと日本のおよそ8倍の氷の大陸が消えて解けてしまった¹¹⁾ということになるわけです。まあ、こうした一つのことが象徴するように、世界の気象の異常ぶりというものが目立つわけですが、これについて、この気象の異常ぶりを丹念に調べておりました気象庁は、今日、異常気象白書というものを発表しました。

(「ニュースセンター9時」NHK、1974年4月1日放送)

(32)は、近年の例とは違い、単文の必須の要素(文の項や5W1H)を省略した文は含まれていない。しかし、談話の構造としてみると、何のニュースなのかがかなり後にならないと分からないような構造になっている。このような例が1974年にすでに見られる。このことから、要点の後置・省略は談話の構造的な要点後置から始まり、単文の必須の要素を省くまでに進んでいったと考えられる。

5. 結論

本論文では、文の要点や必須の要素を後ろのほうに動かしたり省略したりする現象である「要点の後置・省略」について考察した。

「要点の後置・省略」には、単文で、統語的に必須の要素やいわゆる5W1Hの一部が省略されている場合がある。また、談話の構造として、要点が後ろに動かされているものがある。このような談話では、多くの場合、第一文が要点の省略を含む文となっている。このような構造は、小説の冒頭で用いられるものと類似している。

また、ニュースの音声言語に省略がある場合、省略された情報を音声言語以外の記号で補足しているかどうかに関して、3つのパターンがあることを指摘した。それは、①音声言語と同時に出現する他の形式の記号で情報を補う場合、②文の一部を映像などで置き換える場合、③どのような形でも同時には情報を補わない場合である。このうち、③では、第一文で省略された情報が同時には補われず、後になって徐々に明らかにされる、という構造を取っている。

このような「要点の後置・省略」のうち、談話の構造としての要点後置はかなり古くから見られる。本論文は、「要点の後置・省略」が談話の構造的な要点後置から始まり、単文の必須の要素を省くまでに進んでいったとみられることを指摘した。

註

*本論文において重要な(32)のデータの収集に際して、NHKアーカイブス担当者の方々に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

1) 本論文で扱うニュースの例は、大部分NHKで放送されたものであり、一部民間放送で放送されたものを含む。NHKの分類では、放送するプログラム全体を、「ニュース」とそれ以外のプログラムに二分し、「ニュース」以外のプログラムを「番組」としている。本論文では、「番組」という語を「テレビで放送されるプログラム」という一般的な意味で用い、ニュースを扱っているプログラムを「ニュース番組」と呼ぶことにする。

2) 本論文で例として挙げるニュース中に登場する人物や団体などの呼称は、すべて放送されたそのままであり、したがってニュース放送時点でのものである。

3) 本論文で挙げるニュースの言語例は、音声言語の場合、筆者が聴きとって文字にしたものであり、漢字の使用や仮名遣い、読点・句点などは筆者の判断による。ただし、画面上に音声言語と同内容の文字が出ることがあれば、それらを参考にした。本論文の元になっているニュースのデータは、筆者が録画したものから取ったもの、およびNHKアーカイブスによって得られたデータがある。4節の(32)がNHKアーカイブスによって得られたデータ、その他の例は筆者が録画したものである。

4) 談話の第二文以降であれば、(4)のような文が現れることがある。これは従来見られる現象である。

(i) このあたりの家では犬を飼っている家が多い。我が家でも〇飼っている。

5) (7)は疑問文の形式をとっているが、この形式も近年のニュースで顕著に見られるものである。轟(2008)を参照されたい。

6) ニュースにおける映像の意義について、小田原(2008)は、「ニュースの映像は、受け手がニュースの理解、意味づけをする際に、きわめて重要な判断材料となる場合もある、ということだろう。」と述べている。

7) 本論文では、アナウンサーやキャスターなどニュースを伝える人を総称して「ナレーター」と呼ぶことにする。特に、話者の名前がその時点で不明確である場合に「ナレーター」という呼称を用いることにする。

8) この例で字幕はアニメーション効果を伴って出た。これは字幕の出方としてしばしば見られるものである。このような場合、字幕の出始めから字幕が完全に読めるようになるまである程度時間の幅があることになる。(24)で示したのは、字幕がほぼ完全に読めるようになった時点である。

9) この字幕の「カブトムシ」の前に、カブトムシのイラストが入っていた。その他の字幕でも、字幕に飾りが施されている場合があるが、本論文では字幕の言語的な側面に注目しているため、文字の飾りについては特に言及していない。

10) 行方不明の船長の名前の漢字は、「ニュースウォッチ9」の画面の字幕では「義澤宏志さん」

となっていたが、この新聞記事中では「義沢宏志さん」となっていたので、そのままの表記にしてある。

11)「消えて解けてしまった」という表現は、原文そのままである。

参考文献

- Chomsky, Noam (1981) *Lectures on Government and Binding*. Dordrecht: Foris.
- 柏崎 欽 (2013) 「どう書くか 沈黙の 1 年」 朝日新聞 (石川) 2013 年 11 月 30 日 21 面。
- 小田原敏 (2008) 「映像を読み解く—映像言語分析の試み」 小玉美意子編『テレビニュースの解剖学—映像時代のメディア・リテラシー』 東京：新曜社、121-135。
- 中村捷、金子義明、菊地朗 (1989) 『生成文法の基礎—原理とパラミターのアプローチ』 東京：研究社。
- 轟 里香 (2007) 「映像メディアで使用される言語の変化—英語学習者に対する影響—」『北陸大学紀要』第 31 号、125-135。
- 轟 里香 (2008) 「ニュース番組で用いられる言語の変化について」『北陸大学紀要』第 32 号、121-133。
- 轟 里香 (2009) 「日英語における強調表現」『北陸大学紀要』第 33 号、101-108。
- 轟 里香 (2010) 「ニュース番組の相違が言語に及ぼす影響」『北陸大学紀要』第 34 号、99-109。
- 轟 里香 (2011) 「ニュースの内容による言語的相違」『北陸大学紀要』第 35 号、1-12。